

# 波打ち際

梶浦みなみ

からかうように動く砂  
あんなに軽く舞い上がる

浮きに掴まり鳴く鷗  
夕陽も見飽きてるのかな

ほんの少し散歩がしたい  
うっかり潮に流されたい

あの模様の事は  
誰にも話さない  
海はすぐそこ

波打ち際

白み始める水平線  
黒い鯨が横切って  
溜め息じみた潮を噴く  
夜明けも見飽きてるのかな

ほんの少し居眠りしたい  
そのまま沖へ流されたい

あれ以上の事は  
きつと起こらない

海が泣いてる

波打ち際

波打ち際を散歩したい  
ついでに潮に流されたい

あの模様の事は  
誰にも話さない

海はすぐそこ

あれ以上の事は

二度と起こらないわ

海が泣いてる

波打ち際

海はすぐそこ

波打ち際

# 金木犀

花の香りが  
雨を誘って  
むせ返す道  
傘もささずに

向かい風に 刺さる雨粒  
脛が痛い  
それでも目を開き続ける  
この胸に入れて探すの

この戦いに 武器が必要なら  
愛し合いに 意味が必要なら

開いた扉  
漏れ出た光  
不意に掠った  
撫むように

思い出す度 胸に滲みるの  
忘れられない  
手当たり次第聞いて回る  
この胸に入れて探すの

あの温もりに 意味が必要なら  
許し合いに 理由わけが必要なら

## 愛おしさ

泳いだ視線で 追いかける  
光を探した 飲み込める

頭に答えを詰めて空回る  
火を嘔き煙を吐き出して

私の知らない愛おしさで  
世界は包まれた  
真剣にそれを見極めて  
今日が終わった

絡まる思い 言い募る  
飲み込めなくて 蟠る

夢に希望を詰めて空回る  
血を吐き涙を飲み込んで

私には見えない愛おしさで  
世界は包まれた  
真剣にそれを見極めて  
今日が終わった